

項目	取組状況
<p>教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成 29 年度担当科目 日本史、現代社会、特別研究（後期） ◆ 担当科目の取組状況（工夫・改善した点） <ul style="list-style-type: none"> ・日本史では、学生自身の技術や学びを時代・社会との関わりのなかで捉えられるようにするため、政治史だけでなく技術史・社会史的な視点でのアクティブラーニングを随時取り入れた。 ・現代社会では、多様な考え方、生き方、および社会のあり方や仕組みを知ることにより、現代社会の諸問題を複数の視点から検討し、自らの考えをまとめられるようになることを目的として、ワークシートの活用やグループワークの実施等に努めた。 ・特別研究は、「生命・家族のこれまでとこれから」というテーマで、ゼミ形式の授業を行った。生命および家族に関わるトピックを幅広く扱い、日本の歴史や文化および現代社会の諸問題について考えることを目的に、一人ひとりの関心に沿って自由にテーマを設定し、調査や議論等を通じて考えを深められるようにサポートした。 ◆ 特記すべき教育方法の実践例 <ul style="list-style-type: none"> ・日本史の授業においてグループワークを実施した。一つの出来事についてグループごとに異なる立場（視点）から考察・発表し、立場によってその出来事の持つ意味が大きく異なることを体験的に学べるようにした。 ・日本史の教科書では政治史の文脈で登場する事柄について、科学者の立場から見つめ直した映像資料を視聴し、科学技術（者）が歴史に与えた影響について考察できる機会を提供した。 ・現代社会の授業では、貿易ゲームや模擬投票などを取り入れ、国際関係や政治等について身近に感じられるようにした ・現代社会では、高専でなかなか学ぶ機会のないジェンダー論およびセクシュアリティ論のごく基礎的な内容についても取り扱った。 ・特別研究では、導入として共著書『テーマでひらく学びの扉 少子化社会と妊娠・出産・子育て』を活用した。
<p>研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成 27～29 年度における研究業績 <ul style="list-style-type: none"> ■ 著書および学術論文執筆 <ul style="list-style-type: none"> ・伏見裕子『近代日本における出産と産屋—香川県伊吹島の出部屋の存続と閉鎖—』勁草書房、2016 年 3 月 ・西岡正子編著『未来をひらく男女共同参画—ジェンダーの視点から—』ミネルヴァ書房、2016 年 4 月（担当範囲：第 2 章「ジェンダーと歴史」、コラム 12「子どもをもつ女性と職業」） ・由井秀樹編著『テーマでひらく学びの扉 少子化社会と妊娠・出産・子育て』北樹出版、2017 年 4 月（担当範囲：第 3 章「出産—新しい生命を迎えるということ」、第 4 章「母子保健—母と子の「健やかさ」を考える」（共筆）、コラム 10「児童虐待 喫緊の課題 社会が育児を担うしくみ」（共筆） <p style="text-align: right;">他、共著書 1 件、学術論文 4 件</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学術講演会での発表 <ul style="list-style-type: none"> ・伏見裕子「日本における女性観と女性差別：女性のケガレから考える」桃山学院大学 人権週間講演会、2015年12月 ・伏見裕子「近代日本における産屋の変容」第29回長崎県母性衛生学会学術集会、特別講演、2016年6月 ・伏見裕子「出産・母子保健と「家族」」シンポジウム「妊娠・出産・子育ての現在・過去・未来」(主催：立命館大学人間科学研究所インクルーシブ社会・医療サービスプロジェクト)、2017年10月 <p style="text-align: right;">他、16件</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成27～29年度における外部資金獲得状況 <ul style="list-style-type: none"> ・福武財団：瀬戸内海文化研究・活動支援助成「瀬戸内海東部の離島漁村における出産文化の比較研究——伊吹島・走島を事例として」(研究期間：2015年4月～2016年3月、代表者：伏見裕子) ・公益財団法人トヨタ財団：2016年度研究助成プログラム「母子保健における「標準化像」の形成過程に関する歴史的研究」(研究期間：2017年4月～2019年3月、代表者：由井秀樹) ・日本学術振興会：科学研究費助成事業(基盤研究(C))(一般)「女性差別撤廃条約総括所見をめぐる総合的研究：日本の国内実施体制と阻害要因を中心に」(研究期間：2017年4月～2020年3月、代表者：吉田容子) <p style="text-align: right;">他、1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 学会などでの受賞 <ul style="list-style-type: none"> ・スミセイ女性研究者奨励賞「発達障害の早期発見をめぐる歴史と意味—母子保健との関連を中心に—」住友生命保険相互会社、2017年3月 ・日本民俗学会研究奨励賞、2017年10月 ・校長顕彰(第2条のうち(1)の研究関連)2017年10月
社会貢献	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成27～29年度における公開講座・出前授業の取組状況 <ul style="list-style-type: none"> ・はりま産学交流会創造例会「ジェンダーの視点で社会をみると…？」2017年10月 ◆ 平成27～29年度における学協会等の委員 <ul style="list-style-type: none"> ・日本女性学研究会『女性学年報』編集委員(2010～2017年度) ・日本保健医療社会学会機関誌編集委員会査読委員(2017年度) ◆ 特記すべき社会貢献の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法人友遊福祉会 評議員